

# 地域の人々の 安心と安全のために



徳島県徳島北警察署  
地域課所在地員 巡査

河野 寛子 かわの ひろこ

地域課の仕事は担当地域のパトロールをして何か困ったことがないか聞いたりする、地域社会と密着して人々の安心と安全を守る大事な部署です。普段は地道な毎日ですが、地域課には110番があったときに県警本部からの指令を受け、理して最初に現場に駆けつける、という職務もあります。事件の状況を的確に把握して刑事や各担当者に連絡・報告をします。同時に捜査にも協力します。

河野さんは警察官になってわずか3年で、二つの事件の犯人を逮捕しました。昨年3月、コンビニで客の財布が窃盗された事件で、周囲を捜査中、犯人らしき人物を見つけ職務質問で追い詰めて、刑事に連絡して逮捕。もう一件は引ったくり犯人を同じように逮捕しました。武勇伝、と言いたいところですが現実には常に危険と隣り合わせの大変な仕事です。

警察に入るとまず半年間警察学校で訓練を受けます。

「体力には自信を持っていたつもりですが、想像以上に厳しいものでした。毎日走ったり、剣道や逮捕術の訓練があります」

その後、3ヶ月間交番で実務的に勤務し、再び学校に帰って2ヶ月勉強して卒業となります。河野さ

んは最初は徳島西署に配属され、佐古六番町の交番で勤務。昨年3月に北署に転属されました。この間、結婚。ご主人も刑事という警察官コンビですが、24時間勤めて次の日が休みという変則的な勤務です。お互いの身体のことを気遣いながらも、一人でゆっくり過ごすのもままなりません。

「警察官の仕事はハードです。外でパトロールばかりしていると思われるかもしれませんが、たくさん書類作りや、法律のことなど大学で学ばなかったこともいっぱい勉強しなければなりません」

大学ではフランス史を学んだという河野さんが、なぜ警察官に？「結構漫画やドラマの影響を受けやすいところがあって、フランス史は高校の時図書館で読んだ『ベルサイユのバラ』、警察官はテレビの『踊る大捜査線』なんかを見ていたからかもしれませんね(笑)」

中学から陸上で走り高跳びをやっていた河野さんは、二日中デスクワークするより、身体を動かす仕事がしたいと警察官を選びました。

「徳島で生まれて徳島で育ちましたから、漠然とですが徳島の役に立つ仕事をしたいと思っています。学生時代は何でも勉強しているという経験していけば、その中か

ら自分の道が見えてくるんじゃないでしょうか」

と、河野さん。持ち前の明るさと元気で、今日も地域の安全を願ってパトロールに出かけていきます。



徳島県生まれ  
2001年 徳島県立城東高校 卒業  
2005年 総合科学部人間社会学科 卒業

